


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 01農業費

目 02農業振興費

事務事業番号 06010201

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳			
担当部・課			国道支出金	地方債	その他	一般財源
苦小牧市鳥獣被害防止対策協議会補助		3,610 千円	千円	千円	千円	3,610 千円
産業経済部 農業水産振興課						
根拠法令	鳥獣による農林水産業等に係る被害防止のための特別措置に関する法律					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金					
事業の目的・対象	野生鳥獣による農作物被害が深刻化している中、鳥獣被害防止特措法が平成20年に施行され、本法に基づく被害防止計画の作成を推進するとともに被害防止計画に基づく取組に対して国（道）から支援を受け、野生鳥獣による農作物等に対する被害を軽減し、農水産業の発展に寄与することを本事業の目的としています。					
事業の必要性	有害鳥獣による農作物被害が多発する状況の中で、被害防止策を講じることで農水産業の発展に寄与する必要があります。					
事業の内容 SDGs17の目標	 <p>苦小牧市鳥獣被害防止対策協議会が実施する鳥獣の被害防止のための取組を総合的に支援し、具体的には最も農作物への被害を与えているエゾシカ被害防止対策に重点を置き、捕獲器材の導入や苦小牧市鳥獣被害対策実施隊による捕獲鳥獣の解体処理作業に関する費用等の補助を行い、農作物被害の軽減を目的に事業を実施しました。また、近年交通事故や市街地への出没等も増えており、生活環境被害の軽減も目指しました。</p>					
コスト		人件費				
		職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)		従事職員数	
事業費 (R1年度決算額)	3,610 千円	担当正規職員	2,108 千円	0.3	人	
人件費	2,108 千円	嘱託職員	千円		人	
総 計	5,718 千円	再任用（フル）	千円		人	
		再任用（ハーフ）	千円		人	
		任期付職員	千円		人	
		臨時職員	千円		人	
評価指標 (事業実績)	指標名		単位	R1年度	H30年度	H29年度
	くくりわなによるエゾシカ捕獲		頭	430	408	400
自己評価	事業の有効性（効果の達成状況）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
	事業の効率性（費用対効果）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
自己評価の理由	事業の実施により被害が減少しつつあります。					
事業の課題、今後の方向性等	引き続き、くくりわなによる捕獲活動を実施し、被害防止に努めます。					
特記事項						


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 01農業費

目 02農業振興費

事務事業番号 06010202

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳				
担当部・課			国道支出金	地方債	その他	一般財源	
経営所得安定対策等推進事業		88 千円	87 千円	千円	千円	1 千円	
産業経済部 農業水産振興課							
根拠法令							
実施方法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金							
事業の目的・対象		農業経営の安定化を図るため、販売価格が生産費を恒常的に下回っている作物を対象に、その差額を補正する交付金及び農業収入の減少がその農業経営に及ぼす影響を緩和するための交付金を交付する制度である経営所得安定対策を推進するための活動主体となる苫小牧市地域農業再生協議会を支援します。					
事業の必要性		諸外国との生産条件格差から生ずる不利がある畑作物は、コスト割れの補填が必要となり、また、米・畑作物は、農産物価格下落が担い手の経営に及ぼす影響を緩和し、安定的な農業経営ができるよう、農業者拠出に基づくセーフティネットが必要です。					
事業の内容 SDGs17の目標		 <p>苫小牧市地域農業再生協議会が行う下記活動に対し助成しました。</p> <p>※地域農業再生協議会の活動内容</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 経営所得安定対策制度の普及推進活動 2 申請書類等の配布、回収、整理取りまとめ、受付 3 対象作物（産地交付金の助成作物を含む）の作付面積等の確認事務 4 農業者情報のシステム入力・集計事務 5 その他本対策の円滑な実施に必要な活動 					
コスト		人件費					
		職員構成		概算人件費 (平均給与×従事職員数)		従事職員数	
事業費 (R1年度決算額)		88 千円		703 千円		0.1 人	
人件費		703 千円		千円		人	
総計		791 千円		千円		人	
		千円		千円		人	
		千円		千円		人	
		千円		千円		人	
		千円		千円		人	
		千円		千円		人	
		千円		千円		人	
		千円		千円		人	
評価指標 (事業実績)		指標名		単位	R1年度	H30年度	H29年度
		苫小牧市地域農業再生協議会補助金		千円	88	86	84
自己評価		事業の有効性（効果の達成状況）		<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低			
		事業の効率性（費用対効果）		<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低			
自己評価の理由		経営所得安定対策が適正かつ円滑に実施されています。					
事業の課題、今後の方向性等		経営所得安定対策が適正かつ円滑に実施されることにより、農業経営の安定と対象農産物の地域における生産力の確保につなげていく必要があります。					
特記事項							


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 01農業費

目 02農業振興費

事務事業番号 06010203

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳			
担当部・課			国道支出金	地方債	その他	一般財源
就農者等支援事業		500 千円	千円	千円	千円	500 千円
産業経済部 農業水産振興課						
根拠法令						
実施方法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金						
事業の目的・対象		新規就農者に対して、農業次世代人材投資資金の交付や市独自の農業設備等への初期投資助成を行い、資金面での負担を軽減することで経営安定を図り、就農後の定着につなげます。あわせて、農業者と都市住民の交流を図ります。				
事業の必要性		就農者等の就農意欲の喚起や就農後の定着を図ることや、農業者との交流活動を促進することで、農業への理解醸成や新規就農者の増加へつなげていく必要があります。				
事業の内容 SDGs17の目標		 <p>・新規就農者等支援事業 市内の新規就農者等の経営に必要な農機具に対し、助成を行いました。</p>				
コスト		人件費				
事業費 (R1年度決算額)	500 千円	職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)		従事職員数	
		担当正規職員	2,108 千円		0.3 人	
人件費	2,108 千円	嘱託職員	千円		人	
		再任用(フル)	千円		人	
総計	2,608 千円	再任用(ハーフ)	千円		人	
		任期付職員	千円		人	
		臨時職員	千円		人	
評価指標 (事業実績)	指標名		単位	R1年度	H30年度	H29年度
	北海道農業次世代人材投資資金対象者		人	0	0	1
	新規就農者等支援事業者		人	1	0	1
自己評価	事業の有効性（効果の達成状況）		<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
	事業の効率性（費用対効果）		<input type="checkbox"/> 高	<input checked="" type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
自己評価の理由		令和元年度中に新規就農相談が複数件あり、そのうち1件が他市町村から参入し、本市で新たに就農したため、新規就農者等支援事業を活用しました。新規就農者への初期投資に対する助成を行ったことで負担軽減を図ることができたと考えています。				
事業の課題、今後の方向性等		新たな担い手を確保し、地域農業の振興を図るため、今後も継続して実施していくことで新規就農者の負担軽減を図り、就農後の定着には必要と考えております。				
特記事項						


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 01農業費

目 02農業振興費

事務事業番号 06010204

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳			
担当部・課			国道支出金	地方債	その他	一般財源
多面的機能支払交付金事業		4,385 千円	3,289 千円	千円	千円	1,096 千円
産業経済部 農業水産振興課						
根拠法令	農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金					
事業の目的・対象	平成27年度から施行された「農業の有する多面的機能の発揮の促進に関する法律」に基づき、農業・農村の多面的機能の発揮のための地域活動や営農の継続等に対する支援を行い、多面的機能が今後とも適切に発揮されるようにするとともに、担い手の育成等構造改革を後押ししていきます。					
事業の必要性	農業・農村は、国土保全、水源かん養、自然環境保全、景観形成等の多面的機能を有していますが、近年、農村地域の高齢化、人口減少等により、地域の共同活動等によって支えられている多面的機能の発揮に支障を生じさせないこと、また、地域の共同活動の困難化に伴い、水路、農道等の地域資源の維持管理に対する担い手の負担が増大し、担い手の規模拡大が阻害されるのを防ぐ必要があります。					
事業の内容 SDGs17の目標	<div style="display: flex; align-items: center;">  <p> 植苗・美沢地区に「植苗・美沢地区資源保全会」、樽前地区に「タルマイ会」という活動組織を設立し、活動組織は目的を達成させるための計画を策定しました。市は、その計画を認定し、農用地面積に応じ補助金を交付、その補助金で活動組織は、農地維持活動（対象地区内での草刈り等）及び資源向上活動（対象地区内での花壇作り等）を実施しました。 </p> </div>					
コスト		人件費				
		職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)		従事職員数	
事業費 (R1年度決算額)	4,385 千円	担当正規職員	2,108 千円		0.3 人	
人件費	2,108 千円	嘱託職員	千円		人	
総 計	6,493 千円	再任用（フル）	千円		人	
		再任用（ハーフ）	千円		人	
		任期付職員	千円		人	
		臨時職員	千円		人	
評価指標 (事業実績)	指標名		単位	R1年度	H30年度	H29年度
自己評価	事業の有効性（効果の達成状況）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
	事業の効率性（費用対効果）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
自己評価の理由	地区ごとで、農業者や都市住民と交流する機会が増えています。					
事業の課題、今後の方向性等	活動組織が円滑に地域活動を継続していくことができるよう、関係組織（北海道日本型直接支払推進協議会事務局及び活動組織）との連携を継続していく必要があります。					
特記事項						


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 01農業費

目 02農業振興費

事務事業番号 06010205

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳			
担当部・課			国道支出金	地方債	その他	一般財源
地域資源活性化推進事業		1,032 千円	500 千円	千円	千円	532 千円
産業経済部 農業水産振興課						
根拠法令						
実施方法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金						
事業の目的・対象		生産者及び生産者を含む団体による地域資源を活用した新事業の創出（農畜水産物等を活用した新商品を開発する取組）や、地域の農畜水産物の利用促進（直接消費者に販売するなど新たな販路を開拓していく取組）を総合的に推進することにより、農畜水産業の振興を図ります。				
事業の必要性		歴史のある農畜水産業者を、消費者に広くPRします。				
事業の内容 SDGs17の目標		 <p>1 東胆振地産地食フェア・イン・とまこまい補助金 東胆振の食材の魅力を発掘・再発見し、発信するイベントを実施する東胆振地産地食フェア・イン・とまこまい実行委員会に対し、補助金を交付しました。</p> <p>2 地元農畜水産物消費拡大事業補助金 地元農畜水産物や、地元農畜水産物を活用した加工品の消費拡大を図ることを目的としたイベント等に出店する団体等に対し、補助金を交付しました。</p>				
コスト		人件費				
事業費 (R1年度決算額)	1,032 千円	}	職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)	従事職員数	
人件費	3,514 千円		担当正規職員	3,514 千円	0.5	人
総 計	4,546 千円		嘱託職員	千円		人
			再任用（フル）	千円		人
			再任用（ハーフ）	千円		人
			任期付職員	千円		人
		臨時職員	千円		人	
評価指標 (事業実績)	指標名		単位	R1年度	H30年度	H29年度
	地産地食フェア入場者数		人	498	539	582
	出店者数		店	23	24	30
	消費拡大事業補助件数		件	4	1	2
自己評価	事業の有効性（効果の達成状況）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
	事業の効率性（費用対効果）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
自己評価の理由		苦小牧を含めた東胆振の食材の魅力を発掘を通して地域活性化に貢献できていると考えています。				
事業の課題、今後の方向性等		補助金については、今後も地域活性化及び地産地消を図るため、国からの補助金の動向を注視し、検討します。				
特記事項						


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 01農業費

目 02農業振興費

事務事業番号 06010206

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳			
担当部・課			国道支出金	地方債	その他	一般財源
国営造成土地改良事業負担金		8,840 千円	千円	千円	千円	8,840 千円
産業経済部 農業水産振興課						
根拠法令	土地改良法第90条					
実施方法	<input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金					
事業の目的・対象	土地改良法に基づき、昭和41年～48年に実施した排水事業（国営フモンケ土地改良事業）で造成した排水路が老朽化したため、平成24年度から改修工事を行っています。この国営事業が令和元年度で完了することから、地元負担金を納入します。					
事業の必要性	老朽化した排水路の改修工事は農業生産の維持と、農業経営の安定化を図るために必要です。					
事業の内容 SDGs17の目標	 国営造成土地改良事業（平成24年度～30年度工期分）の負担金を納入しました。					
コスト		人件費				
		職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)		従事職員数	
事業費 (R1年度決算額)	8,840 千円	担当正規職員	2,108 千円	0.3	人	
人件費	2,108 千円	嘱託職員	千円		人	
総 計	10,948 千円	再任用（フル）	千円		人	
		再任用（ハーフ）	千円		人	
		任期付職員	千円		人	
		臨時職員	千円		人	
評価指標 (事業実績)	指標名	単位	R1年度	H30年度	H29年度	
自己評価	事業の有効性（効果の達成状況）	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低				
	事業の効率性（費用対効果）	<input type="checkbox"/> 高 <input checked="" type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低				
自己評価の理由	排水路の近隣農家の農業生産の維持と農業経営の安定化が図られました。					
事業の課題、今後の方向性等						
特記事項						


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 01農業費

目 02農業振興費

事務事業番号 06010207

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳				
担当部・課			国 道支出金	地 方債	そ の他	一 般財源	
被災農業者向け経営体育成支援事業【繰越明許】		3,540 千円	2,042 千円	千円	千円	1,498 千円	
産業経済部 農業水産振興課							
根拠法令							
実施方法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金							
事業の目的・対象		平成30年北海道胆振東部地震及び台風第21号による甚大な農業被害により、農産物の生産・加工に必要な施設・機械が損壊した農業者に対して、復旧及び撤去を支援します。					
事業の必要性		被災した農業者は農業経営の安定化に支障を来す事態となっていることから、施設・機械の再建・修繕等を支援し、被災農家の負担を軽減することで農業経営を維持する必要があります。					
事業の内容 SDGs17の目標 		<p>平成30年北海道胆振東部地震及び台風第21号により農業用施設等が被災した者であって、地方公共団体による支援や融資を受けて、被災施設の復旧等、又は倒壊した施設の撤去を行うことにより農業経営を継続しようとする農業者に対し、以下のとおり助成しました。</p> <p>1 施設取得・資材購入・施設整備・修繕 国：2分の1以内 北海道：2割を上限とし、当該市町村補助額と同額 (ただし、事業費600万円以上かつその金額が年間農業収入の3割以上) 苫小牧市：2割</p> <p>2 施設撤去（解体・運搬・処分） 国：定額（単価あり） 苫小牧市：国と同額</p>					
コスト		人件費					
		職員構成		概算人件費 (平均給与×従事職員数)		従事職員数	
事業費 (R1年度決算額)	3,540 千円	担当正規職員	2,811 千円		0.4 人		
人件費	2,811 千円	嘱託職員	千円		人		
総 計	6,351 千円	再任用（フル）	千円		人		
		再任用（ハーフ）	千円		人		
		任期付職員	千円		人		
		臨時職員	千円		人		
評価指標 (事業実績)		指標名		単位	R1年度	H30年度	H29年度
自己評価		事業の有効性（効果の達成状況）		<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低			
		事業の効率性（費用対効果）		<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低			
自己評価の理由		本事業の実施により、農業用施設・機械の復旧を実施し、今後の営農への影響を最小限とすることにより、農業経営の維持及び安定した農業収入の確保が図られました。					
事業の課題、今後の方向性等							
特記事項							


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 01農業費

目 03畜産業費

事務事業番号 06010301

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳			
担当部・課			国庫支出金	地方債	その他	一般財源
樽前放牧場草地改良事業		2,128 千円	千円	千円	千円	2,128 千円
産業経済部 農業水産振興課						
根拠法令						
実施方法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input checked="" type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金						
事業の目的・対象		公共牧場の生産性が低い草地の改良を実施し、生産性を向上させることにより、畜産（酪農）経営の効率化や安定経営が図られます。				
事業の必要性		草地の経年化による土壌や植生の状況悪化を防ぐことで、公共牧場として適正な状況を維持する必要があります。				
事業の内容 SDGs17の目標		 <p>市有樽前放牧場の7つの牧区に対して、毎年度、耕起、施肥、播種等の工程を経て段階的に草地改良を実施しました。</p>				
コスト		人件費				
事業費 (R1年度決算額)	2,128 千円	職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)		従事職員数	
人件費	681 千円	担当正規職員	千円		人	
総 計	2,809 千円	嘱託職員	681 千円		0.2 人	
		再任用（フル）	千円		人	
		再任用（ハーフ）	千円		人	
		任期付職員	千円		人	
		臨時職員	千円		人	
評価指標 (事業実績)	指標名		単位	R1年度	H30年度	H29年度
	草地改良面積		m ²	296,400	296,400	247,500
自己評価	事業の有効性（効果の達成状況）		<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低			
	事業の効率性（費用対効果）		<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低			
自己評価の理由	草地が改良されており、生産性が向上しています。					
事業の課題、今後の方向性等	事業の継続により、生産性の高い畜産農家の育成と、乳用牛及び肉用牛を主とする草食性家畜の生産振興を図るとともに、酪農及び肉用牛の生産拡大と生産コストの低減を進めます。					
特記事項						


事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 01農業費

目 03畜産業費

事務事業番号 06010302

事業名		R1年度 (決算額)		財 源 内 訳			
担当部・課				国道支出金	地方債	その他	一般財源
農業・畜産・酪農収益力強化対策事業		3,072 千円		千円	千円	千円	3,072 千円
産業経済部 農業水産振興課							
根拠法令							
実施方法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金							
事業の目的・対象		農林水産省では、「農畜産業の競争力強化」に向け、農家を始めとした、地域に存在する組織、自治体及び関連産業等の関係者が有機的に連携・結集し（畜産クラスター）、地域ぐるみで収益性を向上させる事業を始め、競争力の向上、自給飼料生産拡大などの事業を実施します。					
事業の必要性		生産基盤を強化するためには、生産者だけでなく、地域の関係者の連携・協力が不可欠であり、国は、地域の実態に応じて、優良な乳用後継牛を確保するなど、地域全体で畜産の収益性の向上させる取組を継続的に支援することから、本市も支援する必要があると考えております。					
事業の内容 SDGs17の目標 		<p>平成27年度農林水産省の畜産・酪農の競争力強化対策事業を実施することになった、JAとまこまい広域の事業であり、個々の事業に支援するのではなく、関連事業を一元化させた事業（土づくり）⇒自給飼料用種子購入⇒自給飼料の生産（収穫等）⇒良質な自給飼料で育った子牛の保留をJAとまこまい広域畜産部が実施、その事業に対し苫小牧市が支援することで、連携して収益力の強化になるよう目指しました。</p> <p>① 土壌診断助成事業 土壌分析に基づく施肥や地域に適合した牧草・農畜産物等、優良品種導入等の取組</p> <p>② 草地更新種子助成事業 国産粗飼料の生産拡大を図るため、飼料作物種子の活用、飼料生産の向上に向けた取組</p> <p>③ 酪農収益力強化組織対策事業 飼料生産組織（コントラクター等）の飼料生産作業の受託による外部化を進め、畜産農家の労働負担軽減及び飼料生産作業の効率化・低コスト化を促進する取組</p> <p>④ 優良繁殖用家畜導入・保留事業 農業経営の安定向上を計るための畜産・酪農振興措置として、畜産農家が繁殖用の優良な家畜を導入・保留した場合、酪農農家が優良な乳用牛を導入・保留した場合に補助する取組</p>					
コスト				人件費			
				職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)	従事職員数	
事業費 (R1年度決算額)	3,072	千円	}	担当正規職員	1,405 千円	0.2	人
人件費	1,405	千円		嘱託職員	千円		人
総 計	4,477	千円		再任用（フル）	千円		人
				再任用（ハーフ）	千円		人
				任期付職員	千円		人
				臨時職員	千円		人
評価指標 (事業実績)		指標名		単位	R1年度	H30年度	H29年度
		乳量		t	2,986	3,304	3,485
		肉用牛の飼養頭数		頭	421	407	357
自己評価		事業の有効性（効果の達成状況）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
		事業の効率性（費用対効果）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
自己評価の理由		地域ぐるみで収益性を向上させる事業を始め、競争力の向上、自給飼料生産拡大などの事業目的に有効な取組と判断しました。					
事業の課題、今後の方向性等		全国の酪農及び肉用牛生産は、飼養戸数や飼養頭数が減少を続けるなど、生産基盤の弱体化により、生乳生産量が減少し、また子牛価格や自給飼料が高騰しているため、今後の酪農及び乳用牛生産の持続的な発展に支障が生じかねない状況となっているため、事業の継続が必要と考えております。					
特記事項							




事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 02水産業費

目 01水産振興費

事務事業番号 06020101

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳			
担当部・課			国道支出金	地方債	その他	一般財源
マツカワ種苗放流事業補助		413 千円	千円	千円	千円	413 千円
産業経済部 農業水産振興課						
根拠法令						
実施方法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金						
事業の目的・対象		えりも以西海域（旧南茅部町～えりも町沖合海域）で大部分が水揚げされていることから、伊達市に種苗生産施設、えりも町に中間育成施設を整備し、マツカワ資源量の増大を図ることを目的とします。				
事業の必要性		漁業が産業として成り立つために、天然資源を補完することが重要となってきます。漁獲量が1970年代半ばをピークを境に1980年代にはほとんどなくなったマツカワの資源の回復を行う必要があります。				
事業の内容 SDGs17の目標		マツカワの種苗を苫小牧沖に放流し、マツカワの資源量の増大を図りました。				
		  				
コスト		人件費				
		職員構成		概算人件費 (平均給与×従事職員数)		従事職員数
事業費 (R1年度決算額)	413 千円	担当正規職員	703 千円	0.1	人	
人件費	703 千円	嘱託職員	千円		人	
総 計	1,116 千円	再任用（フル）	千円		人	
		再任用（ハーフ）	千円		人	
		任期付職員	千円		人	
		臨時職員	千円		人	
評価指標 (事業実績)	指標名		単位	R1年度	H30年度	H29年度
	マツカワ漁獲量		kg	13,999	14,276	16,273
	マツカワ漁獲高		千円	19,635	20,643	22,342
	マツカワ種苗放流数（体長80mm以上）		尾	41,600	45,800	2,700
自己評価	事業の有効性（効果の達成状況）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
	事業の効率性（費用対効果）		<input checked="" type="checkbox"/> 高	<input type="checkbox"/> 中	<input type="checkbox"/> 低	
自己評価の理由		マツカワ種苗放流事業は、漁業協同組合に補助を行い例年実施されており、漁獲量の微増微減があるものの費用対効果は高いと思われます。				
事業の課題、今後の方向性等		今後も放流を継続し、資源の回復状況を見極めるとともに、自然産卵の時期や場所の特定など産卵メカニズムの解明が課題となっています。				
特記事項						

事務事業評価（主要事業レビュー）

款 06農水産業費

項 02水産業費

目 01水産振興費

事務事業番号 06020102

事業名		R1年度 (決算額)	財 源 内 訳																																				
担当部・課			国道支出金	地方債	その他	一般財源																																	
苦小牧産農水産物プロモーション事業		831 千円	千円	千円	千円	831 千円																																	
産業経済部 農業水産振興課																																							
根拠法令																																							
実施方法 <input type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input checked="" type="checkbox"/> 補助金・負担金・助成金																																							
事業の目的・対象		漁獲量日本一を誇るホッキ貝を筆頭に苦小牧市では様々な水産物が水揚げされており、観光客の誘致や水産振興等が図られています。そのため、更なる周知と消費拡大を目的とした事業に対する補助を行っています。あわせて、水産物だけではなく農産物にも興味を示してもらうため、農水産業者と都市住民の交流を図ります。																																					
事業の必要性		市民や観光客への苦小牧市水産物のPR、また更なる「苦小牧産ほっき貝」のブランド化を目指し、水産業からも苦小牧市の活性化に取り組む必要があります。また、都市住民と農水産業者との交流を通じて、農水産業の理解促進や農水産物の消費拡大につなげます。																																					
事業の内容		<p>SDGs17の目標</p>     <p>1 ホッキまつり補助金について 毎年10月第3日曜日に苦小牧港西港漁港区で開催されます。ステージでは、海産物が当たるビンゴ大会やホッキ貝早むき競争、市場などでは袋詰めホッキ貝や海産物の販売が催されます。また、カレーや炊き込みご飯、ラーメンなどホッキを使った各種料理も提供され、毎年大勢の来場者でにぎわいます。このまつりの運営費を補助しました。</p> <p>2 ホッキPR補助金について 今後、消費の需要が期待される東京オリンピック・パラリンピック前に東京都内にて「苦小牧産ほっき貝」のPR及び販促活動を実施し、一層の認知度向上及び消費拡大を図りました。</p> <p>3 グリーンツーリズム展開事業 都市住民と農水産業者との交流が期待できる事業に対し補助を行いました。</p>																																					
コスト		<table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">事業費 (R1年度決算額)</th> <th rowspan="2">千円</th> <th colspan="3">人件費</th> </tr> <tr> <th>職員構成</th> <th>概算人件費 (平均給与×従事職員数)</th> <th>従事職員数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="6">831</td> <td rowspan="6">千円</td> <td>担当正規職員</td> <td>2,108 千円</td> <td>0.3 人</td> </tr> <tr> <td>嘱託職員</td> <td>千円</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>再任用（フル）</td> <td>千円</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>再任用（ハーフ）</td> <td>千円</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>任期付職員</td> <td>千円</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>臨時職員</td> <td>千円</td> <td>人</td> </tr> <tr> <td>総計</td> <td>2,939 千円</td> <td colspan="3"></td> </tr> </tbody> </table>					事業費 (R1年度決算額)	千円	人件費			職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)	従事職員数	831	千円	担当正規職員	2,108 千円	0.3 人	嘱託職員	千円	人	再任用（フル）	千円	人	再任用（ハーフ）	千円	人	任期付職員	千円	人	臨時職員	千円	人	総計	2,939 千円			
事業費 (R1年度決算額)	千円	人件費																																					
		職員構成	概算人件費 (平均給与×従事職員数)	従事職員数																																			
831	千円	担当正規職員	2,108 千円	0.3 人																																			
		嘱託職員	千円	人																																			
		再任用（フル）	千円	人																																			
		再任用（ハーフ）	千円	人																																			
		任期付職員	千円	人																																			
		臨時職員	千円	人																																			
総計	2,939 千円																																						
評価指標 (事業実績)		指標名	単位	R1年度	H30年度	H29年度																																	
		苦小牧漁港ホッキまつり来場者数	人	39,000	37,000	33,000																																	
		苦小牧漁港ホッキまつり補助金	千円	600	600	300																																	
		ホッキPR補助金	千円	200	200	200																																	
自己評価		事業の有効性（効果の達成状況）	<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低																																				
		事業の効率性（費用対効果）	<input checked="" type="checkbox"/> 高 <input type="checkbox"/> 中 <input type="checkbox"/> 低																																				
自己評価の理由		苦小牧漁港ホッキまつりの来場者数も3万人超えを継続しており、ホッキ貝のPRに成果が見られると考えています。また、更なる需要の掘り起こしのため関東圏にて事業を実施していることから、更なる消費拡大を期待できます。																																					
事業の課題、今後の方向性等		ホッキ貝はもちろんのこと、苦小牧産の農水産物全般の認知度・消費拡大を目指し、事業の継続を行っていきます。																																					
特記事項																																							